

2020年度 第1回京大入試実戦模試志望動向<前期>

2020/9/15

- 全体では、志望者数は指数 97 のやや減少。文系は指数 96、理系は指数 97 で、いずれも模試ではやや減少が3年連続継続。
- 文系では、総合人間(文)が指数 117 の大幅増加で唯一増加しており、平均偏差値差も 1.3 ポイントアップで難化傾向が見られる。文は指数 96、法は指数 97 といずれもやや減少。ただし、法は平均偏差値差が 0.5 ポイントアップしており、易化傾向はない。経済(文)は指数 89 の減少で、平均偏差値差も 0.6 ポイントダウンで易化傾向が見られる。教育(文)は指数 85 の大幅減少で競争は大きく緩和しているが、平均偏差値差は 0.5 ポイントアップで易化傾向とはいえない。
- 前年度は経済(文)が平均偏差値、A判定ラインともに法を上回ったが、今年度は再逆転して法が経済(文)を上回った。
- 文系学部の理系型募集区分は募集人員が少ないこともあって極端な増減が表れやすいが、経済(理)が指数 118 の大幅増加で平均偏差値差も 0.6 ポイントアップで難化傾向が見られる。総合人間(理)は指数 111 の増加で競争は厳しくなった。一方で、教育(理)は指数 64 の大幅減少で、前年度の模試での増加の反動が見られ、競争は緩和している。しかし、平均偏差値差は 3.6 ポイントの大幅アップで易化傾向はない。
- 理系は、理が指数 96、工は指数 95 といずれもやや減少となっている。一方で、系統への低人気が続いていた農は減少の底を打った感があり指数 102 の微増となった。
- 工の学科別では、人気の高い系統である(電気電子工)が指数 106、(情報)が指数 105 といずれもやや増加だが、他の4学科は減少。特に、(物理工)が指数 85 の大幅減少、(地球工)も指数 86 の減少と、この2学科の減少が目立った。平均偏差値差では、(工業化学)が 2.1 ポイントダウンで易化傾向が見られる。なお、B判定ラインでは、前年度に続いて(情報)が(物理工)を上回った。
- 農の学科別では、(地球環境工)は指数 168 の激増、(資源生物科学)は指数 122 の大幅増加。一方で、(食料・環境経済)は指数 72、(森林科学)は指数 76 の大幅減少と、学科間での増減が大きく分かれた。
- メディカル系は、薬が指数 102 と前年度の模試での大幅減少の反動は小さく、微増に留まったが、唯一増加した学科となった。しかし、平均偏差値差は 0.9 ポイントダウンしており、むしろやや易化傾向といえる。医(人間健康科学)は指数 87 の減少で競争は緩和した。医(医)は指数 98 の微減で、平均偏差値差も 0.9 ポイントダウンで、最難関医学部医学科であることには変化はないが、やや易化傾向が見られる。成績上位層があえて最難関医学部医学科を敬遠する傾向が継続していることが影響した。

2020年度 第1回京大入試実戦模試<前期> 志望状況

2020/9/15

大学	文理	学部(学科)	志望者指数		平均偏差値差	
			2020年度 /2019年度	2019年度 /2018年度	2020年度- 2019年度	2019年度- 2018年度
京大	文系	文	96	95	-0.2	+0.1
		法	97	96	+0.5	-1.4
		経済	89	98	-0.6	+0.8
		教育	85	99	+0.5	+0.7
		総合人間	117	105	+1.3	-1.1
	理系	経済	118	92	+0.6	-0.4
		教育	64	116	+3.6	-1.0
		総合人間	111	110	+0.4	-0.1
		理	96	100	+0.1	+0.1
		工	95	98	+0.0	+0.1
		医(医)	98	98	-0.9	-0.7
		医(人間)	87	102	-0.3	+0.4
		薬	102	83	-0.9	+0.7
		農	102	86	+0.3	-0.4
		文系	96	97		
	理系	97	97			
	合計	97	97			

